

丸山湿原群保全の会会報

(第 213 号)

発行日：2025 年 (R7) 4 月 16 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com



戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します！

「故郷やどちらを見ても山笑ふ」(正岡子規)「山笑う」(季語としては 3 月?) 季節が突然やってまいりました。「♪う～め も～も さ～くら～…♪」という歌があった。(キッコーマンワインの昭和 TVCM) これは花の咲く順番と覚えたような気がします。「咲く順番は?」と聞かれたらこれが「常識」。ただ、私は小学校からの帰り(3.5 キロ徒歩)に道々眺めていて「桃が一番遅い」と毎年思っていました。今でも私の「常識」としては「梅・桜・桃」です。昔から地方によって咲く時期(種にもよる)が前後していたのかと思いますが、それを一律に決めつけていたことに若干の違和感も感じます。京都中心? 東京中心?

今年、西谷地域は全部一緒。梅・桜・桃がいっぺんに咲いています。特に梅が遅く、今頃満開の木もちらほら見かけます。去年は暖冬の影響で、梅(果実)が超不作だったそうです。早く花が咲き過ぎて未熟な雌しべが多くなり、うまく受粉できなかったそうです。今年は遅いので梅は大豊作か?

今年は虫も遅い。やっとサナエトンボ(早苗蜻蛉)類やホソミオツネン(細身越冬=越冬イトトンボ)が飛び始めました。ハチ類も然り。ということは花の季節とうまくマッチングしたのでしょうか? 虫媒花、鳥媒花の果物は大量か?

気候をコントロールすることは困難。「お天道様」を眺めて一喜一憂するのは昔も今も変わらないのでしょうか。実はこれが健全なのかもしれません。コントロールはできないとして、影響は少しでも減らしていきたいものです。

(今住 4 月 13 日作成)

北摂里山愛す会との協働 ★3 月 23 日(日) 会員 7 名 愛す会 3 名で作業

毎年恒例となった「北摂里山愛す会(里山大学 OB 会)」との協働作業。毎年計画を立てるのですが、なぜか雪が降ったり雨が降ったりで中止が続き、「お天道様」に見放された行事ではないかと揶揄されていました。最近は天候が安定する季節に設定し、うまく実施できています。ところが、季節のいい時期は参加人数が

少なくなる…。皆さんあちこち出かけるのに忙しい。今回も会員は 7 名のみ。愛す会は 3 名。計 10 名での作業となりました。ちと寂しい気もしますが、人数としてはまとまりやすい。しかも皆さん超真面目集団。「お天道様」はしっかり見てくれています。まずやっと越冬蝶が出てきました。ルリタテハ(瑠璃立羽)やウラギンシジミ(裏銀小灰蝶)。



綿密な雑談

「お天道様」はしっかり見てくれています。まずやっと越冬蝶が出てきました。ルリタテハ(瑠璃立羽)やウラギンシジミ(裏銀小灰蝶)。



みんな気ままに湿原へ

気温も低めで作業にはもってこいの日となりました。気付かなかったのですが、実は昨年度の2回目の協働作業だったんです。知ってたか？10月27日にも。この時は計9名。(私、参加せず)



ウラギンシジミ♀ よくぞ冬を耐えた



手作業でも順調に進む
す。「怖いこわい」。

ハサミやノコギリを持たすとひたすら伐り続ける。チェーンソーを使うと伐り続ける。という「都市伝説」ならぬ「里山伝説」現象でしょうか？しかし、我々は基本「手抜き集団」。取り憑かれることがあってはいけません。「愛す会」のメンバーが取り憑かれていたのか？

バカ話や「森を見て？木を見る？」ことも忘れてはなりません。ま〜体力も無くなってきてるし、適当に終わるのですが…。しかし効果は絶大。みるみる「お先」ならぬ「湿原」が見えてきます。昼の休憩でセトウチサンショウウオ(瀬戸内山椒魚)の卵囊や



お昼を食ったら日向ぼっこ ちょっと暑かった？
ほんまはみんな「取り憑かれたい」のでしょうか？今後の方針も修正の必要ありか？

結局、バッファゾーンは第1湿原の両端をあと少し残し、ほぼ「冬季スケルトン状態」になりました。夏にどれほど茂るか楽しみです。残った落葉樹を見て、クロモジ(黒文字)の多さにビックリしました。

岩手県では「里山林業」としてクロモジを1kg150円で薬用酒メーカーに売っているそうです。ちなみに結構あるホオノキの樹皮も漢方の原料として1kg100円になるそう。販売ルートと量の問題はありますが、考え方次第で「お宝」になるかもしれません。「季刊地域」「現代農業」

作業は10月の続き。第1湿原周囲の歩道と湿原の間のバッファゾーンの常緑樹の伐採。枯れ木処理もあり。歩道からのロケーション確保と蒸散を減らすのが目的です。「ヌマガヤ刈り」以外のときはこの作業。手作業が中心でなかなか進みませんが、ヒサカキ(柃)、ソヨゴ(冬青)を「目の敵」にしだすとなぜか黙々と休憩も忘れてひたすら汗を流します。なぜでしょうか？何かが憑依したように。そしていつの間にかチームプレーまで飛び出



早速イバラをかき分けソヨゴ・ヒサカキへ



連携作業がいつの間にか こわい！



シルトで保護色の卵囊

もあっていいんでしょうね。と、ひとり思っていました。



冬場スケルトン仕様

ナラ（小櫓（2 本立ちの 1 本））を処理。枯れ松も数本。どちらもすぐに倒れることはないと思われましたが伐採しました。（ところが道反対側が危なかったみたいです。12 日の記事で）

いい汗をかきました。帰る前に最近恒例化（高齢化もやけど）している御殿山マダムのふるまいが？あるんですよ…彼岸の最終日なので「牡丹餅？」なんて冗談を言っていると、なんと「餡のせ抹茶パンケーキ」が！「ほぼ牡丹餅でんがな」決してこんなところに書いて、毎回強要してるのではありませんのでお間違いなく。決してです。いやホンマ…いかんいかん。

おいしく「お天道様」の下でいただき、本日の活動は終了。「愛す会」の皆さんご苦労様でした。年に何回でも、一人でも結構ですのでまたよろしくお願いいたします。



御殿山マダムに感謝 餡のせ抹茶パンケーキ

定期活動 ★基礎調査 4 月 12（土） 春爛漫近し…まだ山笑えてません！

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導（EC）	PH
丸山	37	40	入口	9：50	14.9℃		
ハイキング・登山	53	102	第 3 湿原	10：30	【18.9℃】	26.6 μ S/cm	6.0
散歩	14	4	視点場	10：51	24.8℃	25.3 μ S/cm	5.8
			第 1 湿原	11：15	【20.0℃】	24.9 μ S/cm	6.2
			第 2 湿原	11：37	【12.0℃】	30.3 μ S/cm	6.4

来場者数計 250 人

（竹筒ポスト集計）

やはりハイキングの来訪者が増えています。しかも市外から。知名度が上がってきたか？「千刈ダム～大岩ヶ岳～丸山湿原」のコースですが…。「西谷の森公園」にも丸山湿原リーフレットの問い合わせが増えているとか。ただ、今年は昨年より約 2 週間、動植物の活動が遅れているようです。昨年が早すぎたという話もありますが。何が標準か分からないこの頃です。

タムシバ（田虫葉）は満開を過ぎ、終わりに近い。コバノミツバツツジ（小葉の三葉躑躅）は満



クロモジ雄花 葉が一緒に出る

開少し手前。草本類は芽を出したところです。そんな中、駐車場で最初に目についたのが商品価値のあるクロモジ。地味ですがとってもきれいな花です。雌雄異株。岩手県で商売にする場合は種を作る雌株をできるだけ残すそうです。写真の株は雄株に見える？花粉があるかな？雌しべは退化して見えない？あまり意識をしていませんでした。雌株には黒い実がなるそうですが、それも全く記憶なし。今年は第 1 湿原で多く確認しているので時期を逃さず見てみましょう。クスノキ科。あの芳香も

納得。「高級爪楊枝」「箸」「お茶」などの素材といつも偉そうに言ってますが、クスノキから作る



ホソバタチツボスミレ ピンズレ



イシモチソウ発芽 3mm?

樟脳のように毒はないのか心配になりました。調べるとお茶にも使われるだけあって毒性はなし。カフェインも無し。お茶は妊婦さんでも安心して飲めるそうです。安息効果あり、殺菌効果あり。ええことばかりやん。もうちょっと大事にしましょう。生で使えるかは知りませんが、葉も軸も乾燥して細かくすると簡単にお茶にできるよう。これも商売になりますね。どなたかプロデュースを。伐り倒しているヒサカキも使えるし…。カフェ「丸山」か茶房「丸山」？市街化調整区域やからな～。クロモジに絡みつくようにウリカエデ（瓜楓）も咲きかけていました。こちらは「メープルシロップ」が作れる。ただとっても根気がいるようです。道々よく見ると小さな花が。昨年、名前を間違えたホソバタチツボスミレ（細葉立坪堇）や定番シハイスミレ（紫背堇）。ただこの時期咲いているはずのツクバキンモンソウが見当たらない。ツチアケビ（これは



倒木除去申し訳ない 結構重い

神出鬼没)の新芽も見当たらない。やはり遅れているのでしょうか。

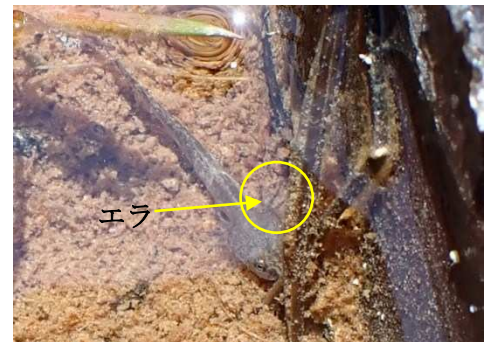
湿原へ進んでいくと道を通せんぼしている倒木が…。前回「愛す会」との作業のときに伐ったコナラの反対側の枯れ木が倒れ込んでいました。風が強い日に倒れたのか。ボロボロだったのか？倒れてるのだから撤去しないと。この日オブザーバー参加の「力自慢」の方にお願ひしました。ご苦労様。たまたま来ただけなのに。

湿原内にも入り、イシモチソウ（石持草）が出ていないか確認。皆さん地面をはいずる。目を超マクロ状態に。「おっ！」3mm ぐらいの芽を発見。まだ粘液を出す葉は展開前。0.5mm ぐらいの拳（こぶし）のように見えました。今年は虫をたくさん捕まえられるかな？がんばれ！



ニホンイモリ成体 6 cm?

水辺ではニホンイモリ（日本井守）が婚姻色？早いような気がしますでしたがいました。やはりアカガエル類のオタマジャクシ狙いでしょうか。そして心配していたセトウチサンショウウオの幼体（約1 cm ぐらい？）もオタマジャクシとともに泳ぐ？たたずんで？いました。ちゃんと立派なエラをつけて。これを見るとまさしく「両生類」と感心してしまいます。イモリに注意ね！食べられる！



セトウチサンショウウオ幼体 1 cm?



コバノミツバツツジ

ていました。計測終了後の帰り道でシュンラン（春蘭）が見送ってくれました。昆虫はまだなのか、シオヤトンボすら見るできませんでした。



シュンラン終わりかけか？

次回活動日 4月27日(日) 5月10日(土) 25日(日) 6月14(土) 総会？